



広報誌

LOOK ルック

2026.1

第24号

いつも当院をご利用いただきありがとうございます。

広報誌ルックでは、当院の取り組みや患者さんに役立つ情報をわかりやすくお伝えしてまいります。

ぜひご活用ください

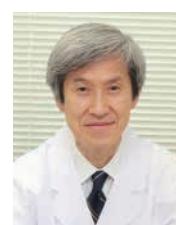
目次／◆新年のご挨拶 ◆特集 腎機能障害と腎不全の治療 ◆訓練実施のご報告

新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

さて各種報道機関によれば、昨年度の医療機関の経済状況は全国の約70%の病院で赤字経営に陥っている、と報じられています。その要因としては医療に必要な資材と医療機器の価格高騰に加え、働き方改革によって増加する人件費が大きく影響していると考えられます。保険診療による診療報酬を収入の基本とする個々の病院にとっては診療収入の大幅な増額は見込めず、老朽化する施設の維持、管理にも支障が生じています。個々の病院の自助努力のみでは経営改善には限界があると思われますが、高度な医療水準を維持し、かつ患者さんの診療機会を確保することは医療機関の使命であり、医療行政の政策に期待しつつ、今後も経営改善と診療体制の維持に鋭意努力してまいります。当病院は急性期病棟に加え、高齢者の救急医療を充実させるための地域包括医療病棟、リハビリテーションを集中的に行うための回復期リハビリテーション病棟、高齢者の治療と在宅復帰支援を行うための地域包括ケア病棟、症状が安定した慢性疾患を主に扱う療養病棟を併せ持つケアミックス病院です。この様な異なった機能を担う病棟を同一施設に複数併せ持つ病院は、今後も超高齢化が進む日本社会においてはその必要性と重要性は増す一方と思われます。私たちもその意義を実感しつつ、各病棟の役割を十分に発揮できるよう、日々鋭意努力を続ける所存です。

今後とも皆様のご支援とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



病院長
金 明博

謹んで新春のおよろこびを申し上げます。

皆さまが穏やかに新しい年を迎えることを、心よりお祝い申し上げます。

私たちを取り巻く医療の環境は、高齢化や人口減少により年々大きく変化しています。そのような中で、当院は急性期・回復期・慢性期をもつケアミックス病院として、地域の皆さまが住み慣れた場所で安心して過ごせるよう、切れ目のない医療と看護の提供に努めてまいりました。昨年度は、高齢者救急をはじめ早期退院に向けたりハビリテーション、栄養管理、在宅復帰支援などの機能を包括的に提供することを目的とした「地域包括医療病棟」を開設し、急性期から在宅まで、幅広い支援に力を入れてまいりました。多職種が声を掛け合い、患者さんとご家族の思いに寄り添いながら、その人らしい生活を再び送っていただけるよう連携を深めています。本年はその取り組みをより良いものにして、地域で暮らす皆さまにとって「頼れる存在」で



看護部長
愛場 佐緒理

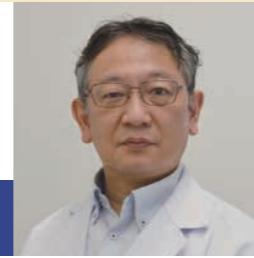
あり続けたいと考えています。「おもいやり・つよさ・あたたかさ」を、私たち看護部は大切にしています。人としてのおもいやりの心を忘れず、専門職としての力を磨き続け、そばにいるだけで安心していただけるようなあたたかい看護を、今年も心を込めて積み重ねていきたいと思います。

皆さまにとって、穏やかで健やかな一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。
本年も変わらぬご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

～特集 腎機能障害と腎不全の治療～

腎不全と腎代替療法について

大阪医科大学三島南病院 血液透析センター長／泌尿器科部長 能見勇人



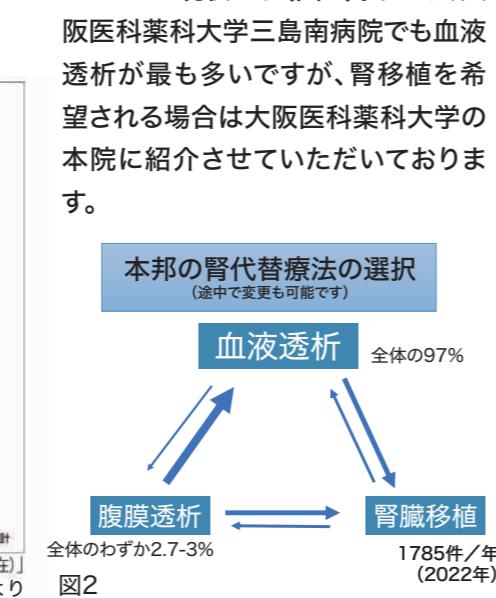
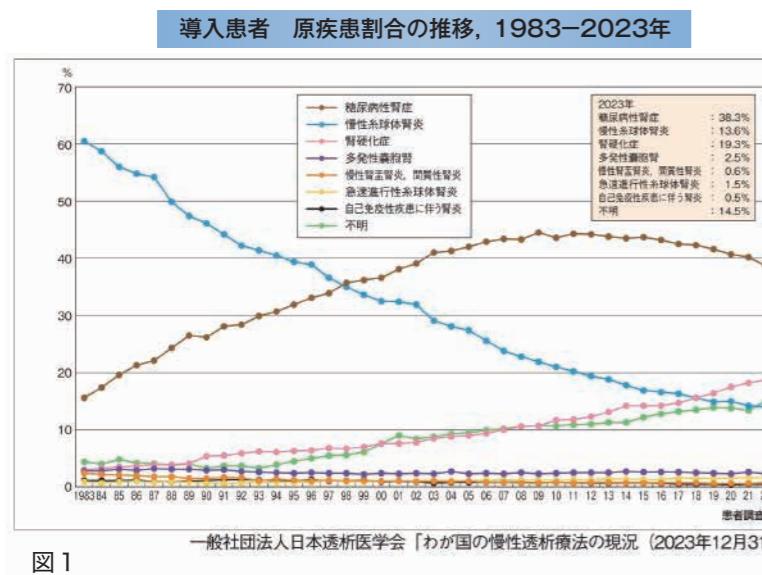
腎臓は尿をつくり、膀胱に向けて尿を送り出す大事な臓器ですが、通常は腰部に左右に1つずつあります。腎臓がんや尿路結石などの病気を原因として腎臓の一つを失ったとしても、もう片方の腎臓が正常であれば、尿を十分つくることができるぐらいたる臓器です。

しかし、長期間の糖尿病から糖尿病性腎症になったり、腎臓に過剰な免疫反応がおこり糸球体腎炎になったり、高血圧から腎硬化症になったりすることで、両方の腎臓が傷んでしまうことがあります。腎臓が少し傷んだ状態を腎機能障害といいますが、さらに進むと腎不全とよばれる状況になります。腎不全になると本来は尿中に排出される老廃物(尿毒素物質)が血液の中に増えてきます。

軽度の腎不全では自覚症状を来すことは希ですが、腎不全が進行し老廃物が血液中などにたまると初めて自覚症状を来します。かゆみ、嘔気、食欲不振、精神的な異常、貧血などの問題を引き起こします。また水分を尿に十分排出できない状況に陥ると、呼吸苦や心不全やむくみの原因になる場合もあります。しかし、初期の腎不全では自覚症状が少ない場合も多く、健診などを受けておられない場合、進行した腎不全が突然判明することもあります。腎不全の状態でも比較的早期であれば保存的な治療を行い腎不全の進行を遅らせたり、状況によっては一部改善できる場合もありますので、健診や病院や医院を受診したときに、たまには血液検査をうけることも大切です。

基本的に腎臓は自己再生する能力のないで、腎不全が進行し末期腎不全となった場合、腎臓を改善することはできません。末期腎不全に陥った場合、血液透析や腹膜透析や腎移植といった腎代替療法が必要となります。このため末期腎不全に陥らないように腎機能の温存を予防的に行うことが重要です。図1は日本透析医学会が集計した、透析療法導入の原因となった病気の年次推移です。

末期腎不全に陥った場合、腎代替療法が必要ですが、最も多いのが血液透析です。血液透析は週3回、1回4時間程度、定期的に透析を行うことが必要となり、生活の大切な時間の一部を奪われることとなります。本邦には約34万人の末期腎不全患者がおられます。その97%が血液透析を受けておられます。血液透析以外には腎移植や腹膜透析といった方法もありますがこれらは、残念ながら少数にとどまっているのが現状です(図2)。やはり、大阪医科大学三島南病院でも血液透析が最も多いですが、腎移植を希望される場合は大阪医科大学の本院に紹介させていただいております。



血液透析センターのご紹介



血液透析センターは、慢性腎不全や急性腎障害に対し血液透析を中心に、血液濾過透析(HDF)など年間約8,000件、患者様の病態に応じた高度な治療を実施しています。また、直接血液灌流法(DHP)、腹水濃縮再静注法なども積極的に行ってています。透析液の清浄化管理を徹底し、エンドトキシン濃度や細菌数を厳格に監視することで、感染リスクを最小化しています。また、バスキュラーアクセスの維持管理にも注力しており、シャントトラブルへの迅速な対応体制を整えています。設備面では、24床の透析ベッドを備え、各ベッドに液晶テレビを設置。透析中の快適性を重視しています。また患者様の通院負担を軽減するため、無料送迎サービス(近隣2km内)を実施しています。透析スケジュールは、月・水・金曜日が午前・午後の2クール、火・木・土曜日が午前ののみの1クールで、入院患者専用枠も確保しています。当センターには看護師、臨床工学技士、透析専門医が常駐し、合併症管理や栄養指導、薬剤調整まで包括的にサポートできる体制を整えています。地域医療連携を重視し、緊急症例や紹介患者の受け入れにも柔軟に対応し、腎不全治療の質向上と患者様のQOLの最大化に努めています。

〈臨床工学科 技師長補佐 山口〉

カリウム・リンが高いと言われたら…

- カリウムとリンは、体の中にあるミネラルで、腎臓と深い関係があります。
- 腎臓の機能が低下すると、カリウムやリンを尿中へ捨てられず、血液中に溜まりやすくなります。
- カリウムとリンは、食品にも含まれているので、食べる量を調整することが改善への第一歩です。
- カリウム、リンが高いと言われた時は、毎日の食事を振り返ってみましょう。



	カリウム	リン
代表的な症状	・血液中のカリウムが増えると、手足のしびれ、筋力の低下(脱力感)、動悸などの症状が現れます。更に重症化すると、不整脈を引き起こし、命の危険を伴うこともあります。	・血液中のリンが増えると、カルシウムの吸収が妨げられ、骨密度が低下し、骨粗鬆症や骨折のリスクが高まってしまうことがあります。
多く含む食品	・野菜、果物(特にバナナ) ・いも類、海藻類 ・乳製品、玉露など	・加工食品(インスタント食品、ハムソーセージなど) ・乳製品(牛乳、チーズ、ヨーグルトなど) ・魚卵、小魚
食事で減らすには?	カリウムは水に溶け出す特徴があります ・野菜やイモ類は、流水にさらす又は茹でこぼす。 ^{*1} ・生果物は缶詰へ ・煮汁飲まない、汁物は飲み干さない ^{*1} ・食材を茹でた後、茹で汁を1度捨ててから、味付けをすること。	・たんぱく質を多く含む食品は、過剰に摂取しない。 ・高たんぱく質飲料、ヨーグルトなどは、安易に食べたり、飲んだりしない。 ・インスタント食品、加工食品の使用頻度は極力減らす。

〈栄養給食科 管理栄養士 石原〉

患者さんの安全を守るために～訓練実施～



さすまた取り扱い訓練



火災避難訓練



消火訓練

11月10日に「さすまた取り扱い訓練(不審者対応訓練)」、12月4日に「火災避難訓練」を実施しました。さすまた訓練では、実際にさすまたを使用しながら、職員同士がどのように連携を取り、患者さんの安全を最優先に行動するかを確認しました。また、火災避難訓練では、初期消火の対応や患者さんを安全に避難誘導するための動き、各部署の役割分担について

再確認を行い、消火器の使用方法についても訓練を実施しました。実際の状況を想定した訓練を行うことで、いざという時にも落ち着いて対応できるよう備えています。これからも当院では「患者さんの安全を最優先に」、職員一同、防災・防犯意識を高め、安心して受診していただける病院づくりに努めてまいります。

地域医療連携室は患者さんやご家族、地域の相談窓口です

1 医療費や生活費などの経済的なこと

3 入院・転院・福祉施設入所の相談・調整

5 かかりつけ医についての相談

私たち
こんな相談に
応じています。

2 入院や治療に伴う病気や仕事に関する不安なこと

4 在宅医療・介護・復職・復学などのこと

6 病院に対する要望やご意見など…



月曜日～金曜日 9:00～16:50
土曜日 9:00～12:00

キャッチフレーズ

～新しい時代へ、共に育み、チームワークで取り組む、信頼の地域医療～

●発行:大阪医科大学三島南病院 ●編集:大阪医科大学三島南病院 広報委員会

〒569-0856 大阪府高槻市玉川新町8番1号 2026年1月発行

TEL 072-677-1333(代表) FAX 072-677-1340(代表)

HP:<https://www.ompummh.jp/>

